

はしもと しゅうへい  
橋本 修平

●電機連合・事務局長

## 就任のご挨拶と、 最近思うことあれこれ

あけましておめでとうございます。

2025年が皆様とそのご家族にとって幸多い年となりますことをご祈念いたします。

昨年7月に開催された電機連合定期大会において事務局長に就任し、同月の労働調査協議会「2024年度定期総会」にて、新たに理事となりました橋本です。宜しく願いいたします。

さて、今回初めて本紙年頭の「労調協理事、新年を語る」への執筆依頼を受け、過去の理事の皆様の記事を拝読させていただきましたが、皆様のように読み応えのある内容を考えることなどとてもできないとの絶望的な思いを持ちつつ筆を執っております。

駄文・乱文大変申し訳ございませんが、軽く読み飛ばしていただければ幸いです。

昨年は、年初の能登半島の地震から始まり、各種の風水害等、非常に自然災害の多い年でした。能登半島においては、その後の豪雨被害も重なりいまだ復旧の目途が立っていない状況です。昨年末の補正予算も有効に活用しながら、一刻も早い復旧・復興につながるよう我々としても心に留めておくことが重要であると思います。

国際社会においても分断が進んだ1年でした。長引くロシアのウクライナ侵攻、中東情勢の悪化等、様々な悲劇はいまだに続いています。

2025年の干支は、「乙巳」です。「乙」は十干では第2位であり、困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる

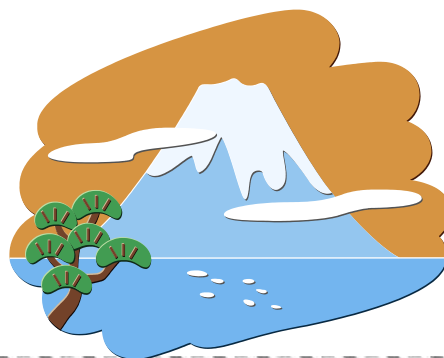
草木を表しており、「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味するとのこと。この2つの組み合わせである乙巳には、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表しているとの考えもあるそうですので、是非世界中の人々の努力で困難を乗り越え、世界が安定していく1年であることを願いたいと思います。

間もなく2025年総合労働条件改善闘争が本格的にスタートします。

取り巻く環境をみますと、数年来続く物価高は2024年も継続し、2024年10月の消費者物価指数（総合）は2.3%のプラスでした。食料、家賃、光熱費などの基礎的支出項目についても、電気・ガス・ガソリンの高騰に対する政府による補助が再開されたものの、同月時点で前年同月比3.0%のプラスで推移しています。さらには頻繁に購入する品目を見ても総合指数を上回っており、生活を大きく圧迫しているとともに消費者が実際に感じる物価の上昇率はより高くなっていると言えます。

加えて、2024年闘争により賃上げが進んだにも関わらず実質賃金はマイナス傾向が継続しており、電機連合が実施した生活実態調査などからも生活水準改善の実感に繋がっていない状況であることが見て取れます。

電機連合は、これまで11年間連続で賃上げに取り組み、2024年闘争においても高い賃上げ額を獲得しましたが、上述した通り組合員の皆さんが生活水準改善を実感するまでには至っていないと思っています。賃金は生



活の基盤であり、組合員の皆さんの生活を守るためにも可処分所得の低下を早期に改善する必要があります。そして、日本全体の実質賃金を改善させるとともに、国際的に見劣りする日本の賃金を引き上げ、成長と分配の好循環を持続的・安定的に回していくことが必要と考えます。

中小企業の賃金水準改善には、労務費の適正な価格転嫁も欠かせません。電機連合としては、2023年度から2年連続で「価格転嫁のフォローアップ調査」を実施し、加盟組合の状況把握に努めています。その結果からは、昨年度より価格転嫁は一定程度進んでいるものの、十分とは言い難く、継続した取り組みが必要であることが伺えます。電機連合としての政党・省庁への提言活動などを通じた、一層の取り組み強化が必要と考えています。

いずれにしても、働く者のモチベーションの維持・向上と生活水準の改善をめざして、2025年闘争においても積極的な「人への投資」を求めるとともに、波及効果の最大化に取り組んでいきます。

話は唐突に変わりますが、最近で印象に残った書籍を紹介したいと思います。

それは、近藤一博氏 著「疲労とはなにか～すべてはウイルスが知っていた～」です。題名の通り最初は、「疲労感」と「疲労」の

違いや生理的疲労と病的疲労、「疲労感」を無理に抑えることの危うさ等に触れられており、それらの内容も大変興味深いものです。しかしながら、本来はウイルス学を専門とする著者が、ヒトヘルペスウイルスと疲労の関連性、そしてそれらの研究の先に、うつ病が究極の病的疲労であり、その原因にウイルスが関連している可能性、さらには新型コロナウイルス後遺症の研究がその解明に重大な役割を果たしたといった想像外の話に展開していきます。

少し専門的な単語が多いので、私自身、一読しただけでは十分に理解することはできなかったのですが、「疲労」「うつ病」に関心のある方（ほとんどの方がそうだと思います）は、一読をお勧めしたいと思います。

その他、海外では疲労を訴えること自体が非常に恥ずかしく、自己管理ができていないものとみなされることから疲労の研究は軽視されており、日本での研究が先端であるなど意外な面にも触れています。そういえば肩こりの概念が海外にはなく、日本に外国の人が住むと肩こりになるといった話を以前聞いたことがあるので、日本人にとって疲労は、より身近なものなのかもしれません。

職場においてうつ病の発生を防いでいくことは、労使を問わず非常に重大な課題ですが、これまで決定的な対策を見いだせずにいるこ

とは周知のとおりかと思います。

もちろん環境的な要因も大きいので、そもそもそのような職場環境にならないようにしていく取り組みは今後も必須ですが、もしこの研究成果が正しく、さらに進んでいくことで、うつ病の原因究明と根本的な治療方法が見つかるのであれば、非常に夢のある話であると思いました。